



すずかけ

No.84
2017

特集

LGBTとは？

「すずかけ大学」講義より



巻頭インタビュー

お笑い芸人・サンドウィッチマン

伊達 みきお さん ②

特集

LGBTとは？ ④

講演会レポート

女性のためのココロ元気講座 ⑥

すずかけひろば講演会 ⑦

すみだに暮らす・働く外国人に聞きました
ロコミ！比較文化論 ⑧

イクメン・カジダン投稿写真 ⑨

すずかけ インフォメーション ⑩

こんにちは すみださん

渡 良夫 さん ⑫





お笑い芸人・サンドウィッチマン

伊達みきお さん

お笑いの仕事が成り立つというのは、すごく幸せなこと。平和でないと心から笑えない。

笑いってというのは平和の象徴なんだと、しみじみ思います。

お笑いの道をめざす前は、介護関連のお仕事をされていたそうですね。

高校生の頃、宮城県内の各高校から5人ずつくらいが集まるボランティアの合宿があったんです。福祉に興味もあったし、男子校だったから女の子と知り合えるかもって下心もあり、ラグビー部の仲間と一緒に参加したんです。手話をやったり障害者施設で仕事を体験させてもらったことがきっかけで、こんなふうな人に携わる仕事がしたいって思うようになったんです。一緒に参加した仲間も軽い気持ちだったんですけど、福祉専門学校に進学して、5人中3人は今も福祉関係の仕事に就いています。僕も5年間ですが介護用品の会社に勤めました。あの合宿で何かが刺さったんでしょうね。やっぱり経験って大きいなと思います。

お笑いをめざしたのは、

profile 伊達みきお Mikio Date

昭和49年、宮城県仙台市生まれ。仙台商業高等学校在学中にラグビー部で相方の富澤たけし氏と出会う。福祉関連の専門学校を中退後、介護関連企業の営業職を経て平成10年にサンドウィッチマンを結成。平成19年、「M-1グランプリ」で敗者復活からの優勝を果たす。テレビ出演のほかライブ活動も精力的に行い、東北復興支援、地域振興にも貢献。

富澤が先でした。富澤とは同じラグビー部で、家も近かった。高校卒業後、あいつは就職しないで吉本仙台台夕やけ劇場で、中学校の同級生と芸人になっていました。当時からコンビを組もうと言われていたんだけど、就職していたからなかなかね。吉本仙台台夕やけ劇場が閉鎖になってしまって、そ

んなときに僕の母方のじいちゃんやんが亡くなったんです。それで一度きりの人生、好きなことに挑戦してみようという気持ちになりました。父親には反対されましたけど、東京で3年間やらせてくれと頼み、何のあてもなく高速バスに乗りました。ラグビー部の友達が「がんばれよー」って見送ってくれましたね。

下積み時代から、転職はいつ訪れましたか？

3年なんてあっという間で、芽も出ない。いよいよ30歳を迎える年に、今年もテレビでネタができない状況のままだったら、きっぱり諦めて田舎へ帰ろうと、富澤と決めました。それからアルバイトも減らし、勝負をかけました。ライブを月15本こなしましたね。その中で「エンタの神様」という番組に出させていただき、そこからちょこちょこ呼んでもらえるように。ぎりぎりだけどお笑

いの収入で生活できるようになりました。そこが大きな分岐点でした。

今では、可愛いお嬢さんのパパですね。

もう、めちゃくちゃかわいいです。もともと、子どもが好きだったんですけど、娘を溺愛しています。この子が大人になるまで育てなくてはと責任をひしひし感じています。結婚したときよりも強く。自分の健康も考えなきゃと思うようになりました。

家のことは、ほぼかみさん任せで言われたらやりません。よくやっているのはごみ捨て、娘の風呂入れ、トイレ掃除とか。掃除機をかけるのは好きだから、時間があるときは自主的にやっていますよ。かみさんと出会ったのも仕事でしたから、彼女が働きたいと思う限り、僕は応援したいと思っています。

ロケ中に東日本大震災を被災され、その後、復興支援、サポート活動を続けてらっしゃいますね。

千年に1度と言われるような大災害でした。当時、宮城県の気仙沼市、魚市場のあたりでロケ中でした。震度6強の地震で、アスファルトの地面が波打つようでした。そのときは津波なんてピンと来なくて、呑気なものでした。でもスタッフの判断で早めに山の高台に避難しました。雪が降っていて寒かったです。寒いから毛布を取りに行った人もいて、そして帰ってきたませんでした。津波が来たのは地震から40分後、8mもありました。

あの大きな津波を高台から目の当たりにして、僕は助かった。何と云うか、助けられたという感じです。あなたたちを助けるから、後のことをしっかりやりなさいって、そう言われたよいうな気がするんです。俺たちは元気だし地元だし、

できる限りのことをしようと思いい、後で必ずお金が必要になるからと、2人で「東北魂義援金」というのを立ち上げ、現在も続けています。

当時、僕らにできることは何か、いろいろと悩みました。震災当初の頃は笑いは必要とされてい

ないと感じていました。だから、僕らにできることは伝えていくことだと思いい、現状をどんどん発信しました。6年が過ぎ、今は観光客を呼びこむことに切り替え活動しています。マイナスイの部分で全国的に知名度が上がったけれど、探ってみれば良いところがたくさん。

もちろん離れていった人もいるけど、震災をきっかけにボランティアなどで訪れ、住みややすさや人の良さに気付いて移住してくる人もたくさんいる。そういう人たちが地域の人と一緒になって、一生懸命に新しいまちをつくって

います。ビットたけしさんがおっしゃっていたのですが、笑いというのは周りが整った環境でないと力を発揮できない。そうでないと入ってこない。お笑いの仕事がり立つのはすごく幸せな状況なんです。笑いは平和の象徴なんだなど、今をしみじみありがたいと思っています。



エルジービーティー

LGBTとは？

今期の「すずかけ大学」全9回の中で「LGBTってなんだろう？〜互いの違いを受け入れあえる社会をめざして〜」という講座がありました。LGBTについて知ることができ、意義深い学びとなりました。

この講座で得た情報を配布資料を元に紹介します。正しい知識を多くの方々と共有できればと思います。

日時 平成29年5月24日(水)
場所 女性センター ホール
参加 32名
講師 特定非営利活動法人
Reebitから3名

※点線枠内については、WEB上での閲覧を制限しており、紙媒体においてのみ閲覧いただけます。閲覧を希望される方は、すみだ女性センター等で配布しておりますので、是非お越しいただきご覧ください。なお、本冊子の詳細については、以下の連絡先からすみだ女性センターへお問い合わせください。

すみだ女性センター

〒131-0045 東京都墨田区押上二丁目12番7号-111号

TEL 5608-1771 FAX 5608-1770

※点線枠内については、WEB 上での閲覧を制限しており、紙媒体においてのみ閲覧いただけます。閲覧を希望される方は、すみだ女性センター等で配布しておりますので、是非お越しいただきご覧ください。なお、本冊子の詳細については、以下の連絡先からすみだ女性センターへお問い合わせください。

すみだ女性センター

〒131-0045 東京都墨田区押上二丁目 12 番 7 号 -111 号

TEL 5608-1771 FAX 5608-1770



LGBTについて、基礎知識はあるかと思っていたのですが、ほんの一部しか知らなかったことがわかりました。身近なことだったことに気づかされ、今回お話を伺って理解ができたと思っています。良い機会をもつことができ感謝しています。

すべての方が個性と受け止められる社会であってほしいと思いました。今日のお話は、私の人生にとって、とてもプラスになるお話になりました。ありがとうございました。

日常生活での困難さ、法的な規制、働く中での人間関係など知ることができた。外観しか見ていなかった自分が恥ずかしい。アライになれるよう努力します。

LGBTという言葉を、今まで聞いた事がなかったので、本日の話を聞いてよく理解できました。特に、講師の方々の実生活に基づいたお話は、実感がこもっていて大変参考になりました。これからは他者に配慮した生き方が必要と実感しました。

講演会レポート

女性のためのココロ元気講座

自分を護る！ココロ構え

リアライズYOKOHAMA代表 橋本明子氏

平成29年10月15日

暴力を振るわれると、なぜ嫌な気持ちになったり、怖い気持ちになったりするかというと、それは権利が奪われるからです。権利には義務が伴うという考え方もありますが、「人権」という生きていくために必要な私たちが生まれたときから持っている権利に義務は伴いません。何らかの暴力を受けるといふことは、この人権に傷がついてしまうということです。

深く傷つける力があります。だから、言葉の暴力だけで殴っていないからいいだろう、などということはあり得ないのです。DV法により対象となるのは、婚姻関係、または事実婚の男女のカップルまでです。同性のカップルは対象となりません。法律の対象外だと警察が動いてくれないなど、いろいろな問題が起きてきます。こうした場合、女性センターや他の専門機関等になるべく早く助けを求め、暴力がある事実をどこかに知らせておくことが必要になります。

ちに広めて欲しいです。こうしたことが暴力防止には有効だと思います。

DVは本人が自分の状況に気づいて、関係性を変えようとしないうちに繰り返してしまいます。ではどうしたら良いかというと、最終的にはエンパワーメント、すなわち自分が元々持っていた力を取り戻すというのが、暴力に対抗していくには必要です。私はそれが唯一無二のことだと思っています。

人間は生命力や創造力、個性や感性といったたくさんの力を持って生まれてきます。暴力を振るわれていると、一時的にその力が発揮できない状態になってしまいます。でも、暴力に対する正しい知識を身につけたら、誰かに共感してもらえたり、人権意識を持つようになったり、希望を持つたりすることで力を取り戻していくことができるようになります。

ぜひ皆さんには、困っている人がいたら、その力を発揮して助けてあげていただければと思います。

身近な人からの暴力であるDV・デートDVは4つに分類されます。身体的な暴力、精神的な暴力、性的な暴力、そして社会的な隔離です。社会的な隔離は、自分が暴力を受けていることを誰にも話せず、友人などがいたとしても社会的に孤立してしまう状態をいいます。

殴られたりすることは、恥ずかしいことではありません。暴力は振るった側が100%悪いのです。誰かが怒る原因をつくったとしても、殴られる必要はないのだということを皆さんには理解していただいて、周りの人た

どんな暴力にも、人の心と体を

理解していただいて、周りの人た

（横山）



参 考 情 報

相 談 窓 口

- **よりそいホットライン**
0120-279-338
(24時間無料電話相談、4番が性別や同性愛などに関する相談)
- **NPO 法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会・東京**
090-9876-2423
(LGBT 当事者の家族・友人による会)

資 料

- **いろいろな性、いろいろな生きかた** (全3巻)
渡辺大輔監修 (いろいろな性と向き合う35人のインタビュー、児童書)
- **NHK「ハートをつなごう」LGBT BOOK**
NHK「ハートをつなごう」制作班監修 (多様な性をポップに学べる一冊)
- **ダブルハピネス**
杉山文野著 (FtMトランスジェンダー当事者の自叙伝)

多様性を認めることができる社会であるために私達ができることは、まず、知る「ことだ」と思っています。「自分の周りにはいない」と思っていないでしょうか？ いらないのではなく、声を上げることができない人、不安で打ち明けられない人がいることに気づかなければなりません。性的少数者であるLGBTへの理解が広がることを願っています。



すずかけひろば講演会

健康に役立つ 海からのおくりものを探し求めて

明治大学副学長
男女共同参画推進センター長 浜本 牧子氏

平成29年9月30日



明治大学
では、女性の
社会進出を
支えるため
1929年
(昭和4年)専
門部女子部

山梨県甲府市生まれですが、東京で一人暮らしをしようと大学院進学をめざしました。大学院では微生物の研究に明け暮れました。学生結婚をし、博士研究員時代に長女出産。当時は育児という制度はなく、生後7週で保育園に預けて職場復帰をしました。長女が1歳5か月のとき、夫の仕事の都合のため家族3人で渡米しました。はじめの1年間は子育てに専念しましたが、2年目は博士研究員として大学で研究に従事しました。この2年間の米国生活で、やはり仕事を通じて社会に関わりを持ち続けたいと思ひ、帰国後、理化学研究所に就職して酵母の多様性について研究をしました。研究者として女性だからという苦労を感じたことはありませんでしたが、子どもの急な発熱の時は夫と協力して半日ずつ有給を取るなど、時間のやりくりをしながら多忙な毎日を送っていました。

2001年海洋科学技術センター(現・国立研究開発法人海洋研究開発機構)との共同研究で海洋酵母の研究を始めました。海洋酵母の多くは多様な赤色コロニー(集落)を形成しますが、細胞の大きさは10マイクロメートルと小さいので海が赤く染まることはありません。2004年明治大学農学部に赴任。その頃、家で犬を飼うことになり、近年のペットの平均寿命の伸長に伴い、犬にも生活習慣病があることを知りました。そこで、人や伴侶動物、産業動物の健康維持に資する機能性物質を微生物から探してみようと考えたところ以前手がけた赤色海洋酵母のことを思い出しました。「あの赤色はカロテノイドに由来し、健康維持・増進に資する機能性物質」だと。実用化に結び付き、社会に貢献できるカロテノイドが発見されることを願って研究を進めています。

法科・商科を開校。1940年には日本初の女性弁護士を輩出しています。2009年男女共同参画推進委員会を設置し、2014年に、明治大学の男女共同参画推進に関する中間まとめを策定しました。当時は女性の専任教員が少ない実態があり、特に理系は全国平均を下回る10・1%でした。また、女性研究者の研究活動支援を推進するすずかけとして、同年、文部科学省科学技術人材育成費補助事業に応募し、採択されました。

2015年2月、委員会を発展的に改組し、男女共同参画推進センターを設置しました。私は2016年より明治大学副学長に任命され、男女共同参画推進センター長となりました。

性別の違いだけでなく、障がいや文化など様々な多様性の承認という考え方が重要であり、すべての人が個性と能力を十分に発揮できる環境づくりが大切だと考えています。

(佐藤)



イタリア共和国
 マウリツィオ・メンカッティニさん
 Mr. Maurizio Mencattini
 愛称：マウリさん



フィレンツェ出身のマウリツィオさん。日本には旅行などで訪れたこともあり、平成28年の4月から区内の日本語学校に通い始めました。調理師の資格を生かして、レストランやもんじゃ焼き屋さんで働いています。

すみだに暮らす・働く
 外国人に聞きました

ココミ！ 比較文化論

笑顔が素敵な好青年、イタリア出身のマウリツィオさんと、フレンドリーでおしゃれなインドネシア出身のアユさん。2人とも区内の学校で日本語を学んでいるとのことで、来日して2年目にもかかわらず、日本語がとってもお上手！

この連載では、それぞれのお国事情から見えてくる文化の違いなどを紹介していきたいと思います。

取材協力：ひらがなネット株式会社



インドネシア共和国
 サリ・アユ・ウスマンさん
 Ms. Sari Ayu Usman
 愛称：アユさん



インドネシアのスラウェシ島に位置する都市、マカッサルの出身。母国の大学で観光マーケティングを学んだ後、平成28年4月に日本語を勉強するために来日しました。日本での就職をめざして、日々努力を積んでいます。

Q 墨田区での暮らしはどうですか？

マウリさん：現在は亀戸ですが、来日当初は両国に住んでいました。どちらも下町の雰囲気があるって、皆さんとても親切にしてくれ、暮らしやすいです。墨田区は歴史のあるまちで、散歩や買い物をしていると力士の方を見かけたりするところも面白いですね。



アユさん：私は本所に住んでいますが、墨田区はどへ行くにもアクセスしやすく便利です。それから、ムスリムがお祈りのできる場所や、ヒジャブ^{※1}をつけて働けるハラール料理^{※2}店などもあって助かりました。

Q おふたりの国の働き方や結婚観、家庭について教えてください。

マウリさん：イタリアでは共働きのカップルが多いです。結婚する人もいますが、事実婚のまま子育てしている人も多いです。残業が少なく、バカンス

もしっかりとるし、子どもたちの夏休みは3か月もあるので、必然的に家族で過ごせる時間が多いと思います。イタリア人の女性は自分の意見をしっかりと持っていてとても強く、家庭内のリーダーは女性が多いです



アユさん：エンジニアやシエラなどには男性、言語や観光関係の仕事には女性が就いている印象があります。女性は結婚すると専業主婦になる場合がほとんどです。働きたいと思ったら、夫に相談した上で、空き時間やケーキを作ったりメイクアップの仕事をしている人が多いかな。インドネシアではイスラム教徒がマジョリティー(多数派)なので、就職・進学などの大事な決断は父や夫の許可をもらってからという家庭が多いです。一見すると男性のほうが立場が強そうですが、普段の家事などは男女の別なく、子どもたちも含めた家族みんなで協力しています。

Q 最後にメッセージをお願いします。

マウリさん：僕は子どもの頃から、着物やアニメをはじめとする日本文化にとってもひかれていました。来日してからは日本料理もよく食べるようになって、自宅でも作っています。特に土鍋で炊いたお米が本当に美味しくて。今は飲食店で働いているのですが、将来は自分のお店を開きたいです。イタリアと日本、双方の良いところを生かした料理を作れたらいいなと思っています。

アユさん：私の父は、日本で勉強したいと相談したとき、「あなたの未来はあなたのもの。だから、自分がしたいことをしなさい」と言って、たくさんのサポートをしてくれました。背中を押してくれた父に感謝しています。これからもっと日本語を勉強して、将来は日本で働きたいです。

※1 ヒジャブ……ムスリムの女性が着用する、頭髪を覆い隠すための布
 ※2 ハラール料理……イスラム法において合法的な食品を使った料理

イクメン

カジダン

投稿写真

イクジイ
也大歓迎!

豚のリエット
作ってみました。

ぷうさん

柔らかいパテの様なもので、フランスパンに塗って食べます。ネットでレシピを発見。手作りしました。



おいしいね
あおパパさん

お出かけの時はいつも
パパの隣をキープ。デ
ザートを2人で食べて
さらにご機嫌♡



元気の源
そうたんさん

仕事が忙しい毎日です
が、休日は息子の笑顔に
元気をもらえます!

遊んだ後は…
まあちゃんぴんさん

公園で遊んだ後はキレイ
好きなパパの指導で手洗
いです(笑)



応募規約

イクメン・カジダンの
写真を募集しています!!



←区モバイルサイトへは QR コードを読み込んでアクセス
※接続時にパケット通信料がかかる場合があります。

投稿先

suzukake@city.sumida.lg.jp

募集写真
のテーマ

イクメン/カジダン/イクジイの写真(1年以内に撮影したもの)
※応募者または、被写体が墨田区内に在住、在勤、在学の方
※子育て、家事をしている男性(子どもがいない方でも可)

応募方法

作品の応募は電子投稿(Eメール)のみです。
以下の内容を記載し、Eメールで応募してください。

- 1) 写真のタイトル
- 2) 応募者(撮影者)の名前(フルネーム、本名)
- 3) ペンネーム(掲載する際に使用)
※記載のない場合は、本名を掲載します。
- 4) 写真についての50字以内のコメント
- 5) 被写体との関係(本人/友人/夫など)
- 6) 連絡先(住所、電話番号)

応募に
ついて

- メールの件名を、必ず「写真投稿」としてください。
- 写真のデータは2MB以内のJPEG形式をお願いします。
- 被写体1人につき1枚の応募とします。
- 応募1回につき添付する画像は1枚とします。
- 郵送による投稿は受け付けておりません。

注意事項

- 応募作品は、著作権や肖像権、プライバシーを侵害するおそれのないものに限ります。写真に写っている方に、必ず承諾を得てください。肖像権その他の権利は、応募者の責任において処理いただいた上でご応募ください。
- 応募作品の著作権は応募者に帰属しますが、応募者は区に対し無制限の使用権を許諾するものとします。(区の他事業等にも使用させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。)
- 応募が多数の場合は選定のうえ掲載させていただきます。
- 掲載枠の都合上、写真やタイトル、説明文等について、こちらで加筆・修正、トリミングをする場合があります。
- 本応募に起因して生じる損害に付き、区は一切責任を負わないものとします。

編集委員からひとこと

性的少数者(LGBT)について「私には関係ない、実際にはよくわからない」と思っている人も、多いのではないのでしょうか。でも気づかないだけで、あなたの周りにも悩みを抱えている人がいるかもしれません。

LGBTだけでなく、障がいや病気、いわれなき差別

や偏見を感じている人達の存在を「知る」ことが大切です。人は、一人ひとり皆違って当たり前です。お互いの違いを認め合える社会こそ、すべての人が暮らしやすく活躍できるものとなることでしょう。

(五井)

すずかけ編集委員会 「特集」p4～p7「こんにちはすみださん」p12担当
柿下・川嶋・木ノ内・五井・小池・佐藤・鈴木・緑川・横山(五十音順)



平成 29 年度すみだパパスクール

パパになった方必見！パパの育児で家族を笑顔に！！

すみだ女性センターでは、男性保護者対象講座として「すみだパパスクール」を例年開催しています。

今年度は、「パパになった方必見！パパの育児で家族を笑顔に！！」と銘打って、パパの目線で家族のライフプランについて検討し、また、パパならではの子どもとの遊び方などを学べる講座を全3回コースで実施しました。

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を実践していくためには、女性だけでなく、男性の育児参画が不可欠ですが、子どもと同様に、パパもママも0歳からのスタートです。本講座は、無理せずできることから始め、子育て期間中の家族みんなの笑顔を増やすきっかけづくりを目的としています。

家族のライフプランとワーク・ライフ・バランス

11月5日（日）10:00～12:00

講師：育児情報誌「miku」&WEBサイト「こそだて」編集長 ^{こうそと}高祖 常子 氏

新しい家族が増える人生の大きな節目。この回は、ワーク・ライフ・バランスの視点を踏まえ、家族のライフプランについて講義しました。



パパだからこそ盛り上がる遊び方！

11月12日（日）10:00～12:00

講師：白梅学園短期大学非常勤講師長 ^{とうきん}頭金 多絵 氏

パパだからこそ盛り上がる遊び方を学びました。普段の遊びにバリエーションが広がります！





一回目の講座では、預かり保育も実施しました。



写真展「スウェーデンのパパたち」(写真家ヨハン・ペーヴマン氏)も同時開催。親子で楽しむパパたちの様子が見られました。



絵本と音楽で歌って遊ぼう!

11月19日(日) 10:00~12:00

講師: パパサークル GooDays 代表 みや ざき よう へい 宮崎 洋平 氏
すみだパパ友会代表 はし もと おと ひこ 橋本 乙彦 氏

絵本の読み聞かせやウクレレの演奏を交え、この回はママも一緒に家族で楽しく遊びました!



平成 29 年度すずかけ大学オープンカレッジのご案内

講演会講師

アテネ・北京オリンピック女子柔道金メダリスト
たにもと あゆみ
谷本 歩実さん

アテネ・北京オリンピック女子柔道金メダリストである谷本歩実さんをお招きします。谷本さんが柔道を始めたきっかけやオリンピック出場したときのこと。その後、引退、結婚、出産を経験し、指導者としての思い、また、2020年東京オリンピック・パラリンピックへの期待など、様々な困難や課題を乗り越えてきた経験をお話いただけます。

日 時 : 平成30年2月17日(土) 午後2時から午後3時30分まで(予定)
会 場 : すみだ女性センター(東京都墨田区押上二丁目12番7-111号)3階ホール
お申込み方法 : すみだ女性センター(03-5608-1771)までお電話ください
定 員 : 150名 ※定員になり次第締め切らせていただきます。



墨田区男女共同参画推進拠点施設

すみだ女性センター ~すずかけ~

【開館時間】

月曜日~土曜日 午前9時~午後9時
日曜日・祝日 午前9時~午後5時
〒131-0045 東京都墨田区押上二丁目12番7号
セトル中之郷内受付2階

Tel: 03-5608-1771 Fax: 03-5608-1770

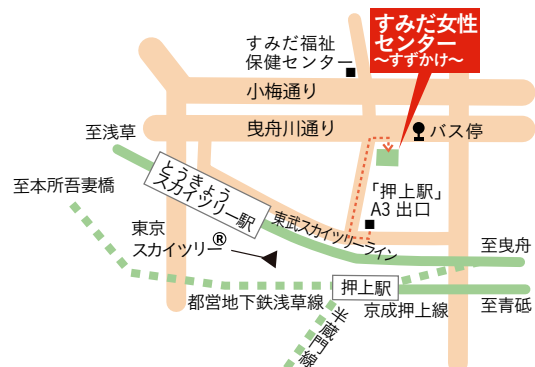
【電車の場合】

京成線(都営浅草線)・半蔵門線
「押上駅」下車A3出口徒歩5分
東武スカイツリーライン
「とうきょうスカイツリー駅」下車
徒歩10分



【バスの場合】

都バス(錦40)南千住東口駅ー
錦糸町駅
「向島三丁目」バス停前徒歩1分
墨田区内循環バス(北西部ルート)
「女性センター」バス停前下車
徒歩1分



こんにちは
すみださん

渡良夫さん

横川五丁目南部町会会長
墨田区男女共同参画推進委員

柔らかな心で
地域をまとめる



区制70周年を迎えた墨田区と同じ年に生まれ、物心ついたときには横川に住んでいた渡さん。町会長として、また区の男女共同参画推進委員としても活躍中です。

「町会長を引き受けたのが約10年前です。コミュニケーションの取り方や人をまとめることの大変さを感じていました。平成23年にすみだガバナンスリーダー養成講座に応募しました。第1期生として講義と実践を2年間学んでいたときに、男女共同参画推進委員にと声が掛かり3期6年目になりました。生活の中で男女共同参画は意識していませんでしたが、一番驚いたのはDVで、そんな行為が信じられませんでした」

DVにショックを受けたという渡さん。家庭ではどんな様子なのでしょう。か。「男子厨房に入らずと育てられた世代で、料理はできないけれど後片付けはする。洗濯物も畳むし、言

われたことは何でもやりまわす。私が従順なのが家庭円満の秘訣」と照れ笑い。男女共同参画は難しいものではなく、自然体で相手を少し楽にさせてあげることだと気づきました。

そんな渡さんは、今号で取り上げたLGBTについて、すみだ女性センターのすずかけ大学の講座を受けられたそうです。「テレビでLGBTについて取り上げられているのを見ていた時に妻から、これからは多様性を認めていく時代だと受講を勧められてねえ。確かに当事者の話を聴いて、こんなことで困っているとか、カミングアウトするのは勇気がいることも分かり、気が使わなくても済む社会になってほしいと思ったね」との感想に思わずうなずいてしまいました。

最近、少子高齢化やマンションの増加で加入する人も減り、町会はその課題を抱えています。

「町会の組織も変わってきています。婦人部を無くし、今は女性を7つの班の班長としています。相変わらず、役員に女性が少ないのは残念です。女性の鋭い目線と細やかな配慮を活かして、もっと責任のあるポストに就いて欲しいと考えています。

まず自分が動かなければ、誰もついてこない。初めて行事に参加した人に声掛けをしたり、マンションの住人を取り込んでいきたい。ホームページの作成や更新、年に4回町会だよりも作っています」
横五南だよりは、カラー版で、読み応えがあります。今後は、早く後継者に譲りたいのですが、まだまだ先のことのようにです。

どんな質問にも気さくに答えてくださる渡さんに接して感じたのは、柔らかな心でした。多様性を認める社会に一番必要なのは柔軟性だと確信しました。

(柿下)